

令和 6 年 6 月 28 日現在

機関番号：84418

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00335

研究課題名（和文）明治・大正期における児童文学・児童文化史の研究 巖谷小波未発表資料の検討を通して

研究課題名（英文）A Study of History of Children's Literature and Culture in the Meiji and Taisho Periods through the Unpublished Materials of IWAYA Sazanami

研究代表者

土居 安子 (Doi, Yasuko)

一般財団法人大阪国際児童文学振興財団・その他部局等・総括専門員

研究者番号：00416257

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本の文学・文化・教育において、多大な影響力を持った巖谷小波（以下、小波とする）の絵葉書等1116通について、すべて画像を撮影し、それらを差出人や宛先等で分類し、内容をデータ化し、読み取りを行った。それによって、小波の海外を含む足跡、および児童文学・児童文化のみでなく、近代文学、教育、政治、経済など幅広い分野の人物との交流があったことが確認できた。加えて絵葉書文化の広がりについても考察することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

明治期から大正期にかけて、巖谷小波（以下、小波とする）の動向やネットワーク状況の一端が明らかになり、これまで論じられていた以上に、いかに小波が児童文学、児童文化、近代文学、教育などに影響力があったかということが明らかになった。特に、小波の家族観、小波がドイツで得た知己、小波の口演童話などの児童文化を全国に広げる活動の様子、俳句や絵葉書を介したネットワークの様態の一端が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：In this study, images were taken of all 1116 postcards and other materials belonging to Iwaya Sazanami (hereinafter referred to as "Sazanami"), an influential figure in Japanese literature, culture, and education, and they were classified by sender, recipient, etc. The contents were converted into data and read. The results confirmed that Sazanami's footprints extended overseas, and that he interacted with a wide range of people, not only in the field of children's literature and culture, but also in modern literature, education, politics, and economics. In addition, we were able to examine the spread of postcard culture.

研究分野：児童文学

キーワード：児童文学 児童文化 絵葉書 明治時代 ドイツ 巖谷小波

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C-19、F-19-1(共通)

1. 研究開始当初の背景

巖谷小波(1870～1933)は、日本で最初の児童文学とも言われる『こがね丸』(博文館、1891年)を執筆した人物として「児童文学の祖」と呼ばれているが、作家のみでなく、読物・雑誌・絵本等の編集者、口演童話家、翻訳者、教育者、昔話・伝説の収集家、玩具の収集家でもあり、児童演劇運動や百貨店等での児童文化運動の推進を行うなど、その活動は幅広い。そして、住んでいた東京のみならず、日本全国で口演活動等を行っており、明治・大正時代の全国の児童文学・児童文化関係者と強いネットワークを形成していた。また、ドイツ、旧満洲、朝鮮半島、台湾など、日本のみでなく海外での活動も行っていった。彼の活動は存命中のみならず、後世の児童文学、手塚治虫をはじめとしたマンガ、紙芝居、アニメーションなど、児童文化にも多大な影響を与えている。

これらの多種多様な活動に関して、研究の積み重ねが進んでいる分野もあるが、未開拓の分野も多く、小波の幅広い活動を包括的にとらえて、児童文学・児童文化史の中で位置付けを試みた研究は行われていない。

また、小波の日記翻刻研究は行われているものの、小波の孫にあたる巖谷國士氏所蔵の1,000枚を超える葉書等の自筆資料は、小波の足跡や人物ネットワークなどがたどれる貴重な資料であるにもかかわらず、未整理のままでこれまで研究対象になることはなかった。

2. 研究の目的

本研究は、日本の文学・文化・教育において、多大な影響力を持った巖谷小波(以下、小波とする)を核として、小波の未発表資料を検討しながら、明治・大正期の児童文学・児童文化史を研究するものである。

巖谷國士氏の自宅には、1,000枚を超える葉書類が未発表・未整理のまま保存されている。この資料からは、小波の海外を含む足跡、および児童文学・児童文化のみでなく、近代文学、教育、政治、経済など幅広い人物との交流があったことがわかる。

そこで、未発表資料を整理・公開すると同時に、その資料を起点に、小波の活動やネットワークを解明し、日本児童文学・児童文化がいかに小波の影響を受けて発展したのかを、領域横断的な視点で検討し、その今日的意義についても考察する。

3. 研究の方法

(1) 資料の整理、データ入力

発表・未発表であった巖谷小波の自筆葉書等全 1143 点について撮影し、1通ずつ、カテゴリー、差出人名、差出人名よみ、差出人所属、差出人情報、消印1、消印2、日付注記、発信国、発信地、宛先人名、宛先人名よみ、宛先国、宛先住所、宛先人情報、絵の種類、絵について(場所等)、種別(封書/葉書/その他)、数量、形態(筆記具種別)、①サイズ、②内容の概要、を入力し、別途書かれている内容についても読み下して入力した。

(2) 調査・研究、研究会の実施

それらの資料を元に各研究者がさまざまな視点から調査・研究を行い、研究会を定期的開催し、研究成果を共有し、議論して、研究内容の充実を図った。

4. 研究成果

本研究の成果としては、以下の点が挙げられる。

(1) 資料の整理

これまでほぼ未発表・未整理であった小波の孫・巖谷國士氏所蔵の巖谷小波の絵葉書等 1116

通(葉書 1071 通、封書 15 通、その他手描き絵、市販絵、写真など 30 通)について、すべて画像を撮影し、それを小波が差出人である絵葉書、小波が受取人である絵葉書、それ以外、未使用で分類し、内容をデータ化し、読み取りを行った。これによって、資料の全体像が明らかになった。そこには、小波から家族宛での絵葉書約 300 通とともに、国内外から小波に宛てて送られた約 700 通の絵葉書が含まれている。

< 資料の総数 >

はがき	封書	その他	合計	備考
1071	15	30	1116	その他は手描き絵、市販絵、写真

< 差出人/受取人別のはがき数 >

差出人が小波	310	ヨーロッパから(90) アメリカから(89) 日本から(115) その他(アジア諸国)から(16)
受取人が小波	691	
小波以外 小波以外	17	
未使用	53	
合計	1071	

1890 年代から戦後に至るまで、長期に亘って交わされた私信には、小波を中心とする広汎な人のつながりは言うまでもなく、児童文学や児童文化をはじめとして、一般文学や演劇、出版、編集、美術、建築、民俗および教育、政治経済、法律、軍事など、実に 500 名を超えるあらゆる分野の関係者とのやりとりが見てとれた。これによって、多方面で活躍し、明治から大正、昭和にかけて一時代を築いた小波らしさを反映する、実に壮大な絵葉書コレクションであることが改めて確認できた。

(2) 資料の全体像の把握

まずは、絵葉書資料の全体像、およびその価値に関する研究が行われた。日本児童文学学会第 61 回研究大会(2022 年 11 月 20 日、宮城教育大学)では、「ラウンドテ - プル 巖谷小波と絵葉書」を行い、絵葉書資料の所蔵者で、孫である巖谷國士・明治学院大学名誉教授の講演、および、中川の報告が行われた。講演では、小波の活動が児童文学・児童文化にとどまらず、いかに広範囲であり、その交友関係が見てとれるか、日本の絵葉書文化への多大なる影響、小波の家族観など、資料を基にした幅広い研究活動の可能性が示唆された。また、中川は、報告を「巖谷家所蔵 巖谷小波関連絵葉書研究について 多様な小波研究への入り口」として、『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第 36 号にまとめた。

一方、土居は、本プロジェクトで調査した結果をまとめ、「巖谷家所蔵 巖谷小波関連絵はがき等の概要について - 小波宛て絵葉書の差出人」(『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第 37 号)として報告した。そこからは、小波のネットワークの広さがうかがえると同時に、いかに、小波が俳句と深いかわりをもっていたかがわかる。

(3) 児童文化活動における小波

口演童話家としての巖谷小波研究についてもプロジェクトメンバーからの多様なアプローチがあった。遠藤は、絵葉書と雑誌等の関連資料を突合しながら小波の口演活動の足跡を調査し、「明治期における巖谷小波のお伽口演活動 巖谷家所蔵絵葉書および関連資料からの検証」

(『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第 37 号)にまとめた。また、酒井は、1枚の絵葉書を起点に、周辺資料を駆使して花巻での小波の活動、および当時の地方の児童文化のありようを検討し、「巖谷小波の花巻巡講 花城尋常高等小学校(大正四年九月一五日)の絵葉書を出発点として」(『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第 37 号)を執筆した。小波の地方での足跡はまだまだ解明されておらず、絵葉書を突破口によりいっそうの調査・研究が期待される。

加えて浅岡は、小波もかかわった金沢の口演活動を研究し、「金沢お伽倶楽部 二〇世紀初頭における地方児童文化運動の萌芽」(『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第 35 号)にまとめた。大貫は、小波と同時期に口演活動を行った松美佐雄の新聞記者時代の活動について「松美佐雄の長野時代 『信濃毎日新聞』掲載作品に関するノート」(『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第 34 号)を発表した。ここからも、小波が地方の児童文化にかかわっていたこと、その発掘の重要性がうかがえる。

(4) 雑誌および図書編集者としての小波

雑誌および図書の編集者としての小波研究もさまざまな角度からなされた。まず、柿本は、小波も執筆した「少年文学」叢書について、口絵や挿絵、および、受容研究を行い、「『少年文学』叢書と口絵・挿絵の制作」(『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第 36 号)「博文館『少年文学』叢書のひろがり 明治・大正期にわたる受容の過程に注目して -」(『児童文学研究』第 56 号)にまとめた。加えて、『児童雑誌の誕生』(文化通信)を出版し、小波が編集にかかわる以前の児童雑誌状況を明らかにした。また、「少年少女雑誌と日記帳 博文館・金港堂・実業之日本社を中心に」(『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第 34 号)では、小波が編集していた雑誌『少年世界』を含む少年少女雑誌と日記の研究を行い、当時の児童出版文化のありようを検討した。

一方、土居は、小波が主筆であった『幼年世界』を当時出版されていた児童雑誌『良友』と比較し、類似した内容であった両誌が変化していくさまを追い、「第二次『幼年世界』(博文館)の特徴 『良友』との比較を通して」(『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第 35 号)にまとめた。加えて、研究協力者の香川雅信は、「入江コレクションの子ども雑誌(大正期)」(『兵庫県立歴史博物館紀要 塵界』第 33 号)をまとめ、兵庫県立歴史博物館での資料の所蔵状況を明らかにした。

(5) 児童文学作家としての小波

児童文学作家としての小波研究としては、小波が主筆であった『幼年世界』での小波作品を分析した「『幼年世界』(第二次)における巖谷小波作品の特徴」(『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第 34 号)、および、小波がシリーズすべての文を書いた「日本一ノ画噺」についての「絵本としての『日本一ノ画噺』」(『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第 36 号)を土居がまとめた。また、目黒は、博士論文「明治期における課外読み物としての 児童文学 の正統化と逸脱」(神戸大学)の中で小波に言及すると同時に、「課外読み物としての松山思水『喜劇と喜歌劇 アンポンタン』の位相」(『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第 34 号)を発表し、小波と同時代の児童文学作品のありようを研究した。

(6) 児童文化人としての小波

児童文化人としての小波研究もおこなわれた。酒井は、「森永製菓の児童文化関連事業前史 小波・三越とのつながりを手がかりに」(『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第 35 号)、「巖谷小波という呉服店 出発期の動向・新聞記事を手がかりとして」(『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第 36 号)をまとめ、小波が百貨店を中心とする児童文化運動にいかにかかわっていたかを明らかにした。

また、目黒は、「巖谷小波の児童文化施設構想」(『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第35号)で小波が先駆的な児童文化施設を構想していたことを明らかにした。

(7) 硯友社メンバーおよび絵葉書コレクターとしての小波

小波は、硯友社のメンバーであり、俳人でもあり、また絵葉書コレクターでもあった。宮川は、研究会(2020年12月27日)で「巖谷小波とはだれか」という発表を行い、硯友社の中での小波の位置づけ、小波の文体と硯友社文学とのかかわりについて検討した。

一方、大貫は、「寓意としての「涙」 漣山人『妹背貝』論」『文学・語学』第239号で小波の小説について分析すると同時に、ラウンドテ - プル「巖谷小波の絵葉書から見えるもの: 旅と家族と幅広いネットワーク状況をたどる」(日本児童文学学会第62回研究大会、武蔵野大学)で発表した内容を発展させ、「巖谷小波絵はがきコレクションにみる絵はがき文化と交友圏 「すみや書店」鹿塩秋菊に注目して」(『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第37号)をまとめ、小波が絵葉書や俳句などを通していかに人脈を広げていたかを明らかにした。この研究から、本絵葉書研究の広がりの可能性が見て取れる。

(8) 海外でのネットワーク、小波の家族観

絵葉書資料の中には、小波の海外滞在中のものも多い。柿本は、ラウンドテ - プル「巖谷小波の絵葉書から見えるもの: 旅と家族と幅広いネットワーク状況をたどる」での報告を発展させ、渡米実業団での小波の足跡やネットワーク状況を明らかにした「アメリカからの小波絵葉書」(『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第37号)をまとめた。

中川は、小波日記研究会の一員として、従来から小波の日記の翻刻研究を行ってきたが、本プロジェクト実施中にも毎年日記解読の成果を発表してきた。それらは、「巖谷小波日記 翻刻と註釈: 手帳(明治三十八年十月)」(『白百合女子大学児童文化研究センター研究論文集』第25号)、「巖谷小波日記 翻刻と註釈 明治三十八年(九月～十二月)」(『白百合女子大学児童文化研究センター研究論文集』第26号)、「巖谷小波日記 翻刻と註釈 翻刻と註釈 明治三十九年(一月～四月)」(『白百合女子大学児童文化研究センター研究論文集』第27号)に発表された。小波像の研究は、絵葉書を資料としても行われた。「巖谷小波 欧州から家族に宛てた89通の絵葉書(1900～1902) 家長・夫・父親としての小波」(『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第37号)では、小波の家族観、子ども観の一端が明らかにされた。

(9) 今後の課題

以上のように、これまでほぼ未発表であった小波の孫・巖谷國士氏所蔵の巖谷小波の絵葉書等1116通(葉書1071通、封書15通、その他手描き絵、市販絵、写真など30通)について、整理し、それらの資料とこれまでの研究成果の積み重ねや他の資料を使って、小波を中心とした児童文学、児童文化、近代文学、絵葉書文化などのネットワーク状況の一端が明らかになった。

しかしながら、絵葉書の読み取りについては、宛先を含めて解読できなかったり、小波との関係が不明であったりする絵葉書も残っており、今後の課題である。

加えて、絵葉書文化研究、俳句研究、ドイツをはじめとする海外での小波のネットワーク研究、小波の教育分野での業績と絵葉書の関係等については、豊富な資料を十分に研究できたとはいえない。また、小波絵葉書の公開についても、展示など、より多くの情報を多くの人に伝えることを目的とし、研究を継続したい。

以上が4年にわたる研究の成果である。今後、本プロジェクトを発展させ、「明治以降の絵葉書に見る児童文学・児童文化の研究 巖谷小波旧蔵資料の分析」(基盤研究(c)24K03683 研究代表者:土居安子)で研究をより充実、発展させたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計26件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 遠藤純	4. 巻 37
2. 論文標題 高尾亮雄（楓蔭）の研究 巖谷小波との接点を中心に	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 大阪国際児童文学振興財団研究紀要	6. 最初と最後の頁 11-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤純	4. 巻 37
2. 論文標題 明治期における巖谷小波のお伽口演（講演）活動 巖谷家所蔵絵葉書および関連資料からの検証	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 大阪国際児童文学振興財団研究紀要	6. 最初と最後の頁 55-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大貫俊彦	4. 巻 239
2. 論文標題 寓意としての「涙」 漣山人『妹背貝』論	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 文学・語学	6. 最初と最後の頁 23-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大貫俊彦	4. 巻 37
2. 論文標題 巖谷小波絵はがきコレクションにみる絵はがき文化と交友圏 「すみや書店」鹿塩秋菊に注目して	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 大阪国際児童文学振興財団研究紀要	6. 最初と最後の頁 53-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柿本真代	4. 巻 56
2. 論文標題 博文館「少年文学」叢書のひろがり 明治・大正期にわたる受容の過程に注目して -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 児童文学研究	6. 最初と最後の頁 53-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柿本真代	4. 巻 37
2. 論文標題 アメリカからの小波絵葉書	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 大阪国際児童文学振興財団研究紀要	6. 最初と最後の頁 41-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井晶代	4. 巻 37
2. 論文標題 巖谷小波の花巻巡講 花城尋常高等小学校(大正四年九月一五日)の絵葉書を出発点として	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 大阪国際児童文学振興財団研究紀要	6. 最初と最後の頁 35-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土居安子	4. 巻 37
2. 論文標題 巖谷家所蔵 巖谷小波関連絵はがき等の概要について - 小波宛て絵はがきの差出人	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 大阪国際児童文学振興財団研究紀要	6. 最初と最後の頁 19-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川理恵子	4. 巻 37
2. 論文標題 巖谷小波 欧州から家族に宛てた89通の絵葉書(1900-1902) 家長・夫・父親としての小波	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 大阪国際児童文学振興財団研究紀要	6. 最初と最後の頁 29-39
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小波日記研究会(猪狩友一、木村八重子、竹田修、中川理恵子)	4. 巻 27
2. 論文標題 巖谷小波日記 翻刻と註釈 ; 明治三十九年(一月~四月)	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 白百合女子大学児童文化研究センター研究論文集	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土居安子	4. 巻 37
2. 論文標題 研究プロジェクト活動報告: 明治・大正期における児童文学・児童文化史の研究 巖谷小波未発表資料の検討を通して	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 大阪国際児童文学振興財団研究紀要	6. 最初と最後の頁 11-18
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柿本真代	4. 巻 36
2. 論文標題 「少年文学」叢書と口絵・挿絵の制作	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大阪国際児童文学振興財団研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井晶代	4. 巻 36
2. 論文標題 巖谷小波という呉服店 出発期の動向・新聞記事を手がかりとして	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大阪国際児童文学振興財団研究紀要	6. 最初と最後の頁 19 - 42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土居安子	4. 巻 36
2. 論文標題 「絵本」としての「日本一ノ画噺」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大阪国際児童文学振興財団研究紀要	6. 最初と最後の頁 (1) - (18)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川理恵子	4. 巻 36
2. 論文標題 巖谷家所蔵 巖谷小波関連絵葉書研究について 多様な小波研究への入り口	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大阪国際児童文学振興財団研究紀要	6. 最初と最後の頁 (31) - (36)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川理恵子	4. 巻 26
2. 論文標題 巖谷小波日記 翻刻と註釈 ー明治三十八年(九月~十二月)小波日記研究会	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 白百合女子大学児童文化研究センター研究論文集	6. 最初と最後の頁 (1)-(18)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浅岡 靖央	4. 巻 35号
2. 論文標題 金沢お伽倶楽部 二〇世紀初頭における地方児童文化運動の萌芽	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大阪国際児童文学振興財団研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 目黒 強	4. 巻 35号
2. 論文標題 巖谷小波の児童文化施設構想	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大阪国際児童文学振興財団研究紀要	6. 最初と最後の頁 15-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井 晶代	4. 巻 35号
2. 論文標題 森永製菓の児童文化関連事業前史 小波・三越とのつながりを手がかりとして	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大阪国際児童文学振興財団研究紀要	6. 最初と最後の頁 33-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土居 安子	4. 巻 35号
2. 論文標題 第二次『幼年世界』(博文館)の特徴 『良友』との比較を通して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大阪国際児童文学振興財団研究紀要	6. 最初と最後の頁 (1)-(18)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 香川雅信	4. 巻 33号
2. 論文標題 入江コレクションの子ども雑誌（大正期）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 兵庫県立歴史博物館紀要 塵界	6. 最初と最後の頁 61 - 92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小波日記研究会（猪狩 友一，木村 八重子，竹田 修，中川 理恵子）	4. 巻 5巻25号
2. 論文標題 巖谷小波日記 翻刻と注釈：手帳(明治三十八年十月)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 白百合女子大学児童文化研究センター研究論文集	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 土居安子	4. 巻 34
2. 論文標題 『幼年世界』（第二次）における巖谷小波作品の特徴	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大阪国際児童文学振興財団研究紀要	6. 最初と最後の頁 (13) - (30)
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柿本真代	4. 巻 34
2. 論文標題 少年少女雑誌と日記帳 博文館・金港堂・実業之日本社を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大阪国際児童文学振興財団研究紀要	6. 最初と最後の頁 13-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大貫 俊彦	4. 巻 34
2. 論文標題 松美佐雄の長野時代 『信濃毎日新聞』掲載作品に関するノート	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大阪国際児童文学振興財団研究紀要	6. 最初と最後の頁 33-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 目黒強	4. 巻 34
2. 論文標題 課外読み物としての松山思水『喜劇と喜歌劇 アンボンタン』の位相	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大阪国際児童文学振興財団研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 3件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 大貫俊彦
2. 発表標題 巖谷家所蔵「巖谷小波絵はがきコレクション」にみる人間関係のネットワーク 「すみや書店」鹿塩秋菊を一連として
3. 学会等名 日本児童文学学会第62回研究大会ラウンドテーブル〔「巖谷小波の絵葉書から見えてくるもの：旅と家族と幅広いネットワーク状況をたどる」〕
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 酒井晶代
2. 発表標題 巖谷小波の花巻巡講 花城尋常高等小学校（1915.9.15）の絵葉書を出発点として
3. 学会等名 日本児童文学学会第62回研究大会ラウンドテーブル〔「巖谷小波の絵葉書から見えてくるもの：旅と家族と幅広いネットワーク状況をたどる」〕
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 遠藤純
2. 発表標題 巖谷小波のお伽口演活動の実態について 絵葉書および関連資料から
3. 学会等名 日本児童文学学会第62回研究大会ラウンドテーブル〔「巖谷小波の絵葉書から見えてくるもの：旅と家族と幅広いネットワーク状況をたどる」〕
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 柿本真代
2. 発表標題 アメリカからの小波絵葉書
3. 学会等名 日本児童文学学会第62回研究大会ラウンドテーブル〔「巖谷小波の絵葉書から見えてくるもの：旅と家族と幅広いネットワーク状況をたどる」〕
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中川理恵子
2. 発表標題 巖谷小波 欧州から家族に宛てた89通の絵葉書（1900～1902） 夫・父親としての小波
3. 学会等名 日本児童文学学会第62回研究大会ラウンドテーブル〔「巖谷小波の絵葉書から見えてくるもの：旅と家族と幅広いネットワーク状況をたどる」〕
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中川理恵子
2. 発表標題 巖谷家所蔵 巖谷小波関連絵葉書研究について 多様な小波研究への入り口
3. 学会等名 日本児童文学学会第61回研究大会ラウンドテーブル〔巖谷小波と絵葉書〕
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 柿本真代
2. 発表標題 博文館「少年文学」叢書のひろがり 明治・大正期にわたる受容の過程に注目して
3. 学会等名 日本児童文学学会第61回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松本育子
2. 発表標題 第1回『子供之友』(婦人之友社刊)の画家たち
3. 学会等名 宮城県美術館美術館講座(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 柿本真代
2. 発表標題 宿題としての日記：近代日本の日記指導とその変遷
3. 学会等名 京都華頂大学現代家政研究所研究会(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 柿本真代
2. 発表標題 宿題としての日記：近代日本の日記指導とその変遷
3. 学会等名 京都華頂大学現代家政研究所研究会(招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 柿本真代	4. 発行年 2023年
2. 出版社 文化通信	5. 総ページ数 290
3. 書名 児童雑誌の誕生	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	浅岡 靖央 (Asaoka Yasuou) (60788941)	白百合女子大学・人間総合学部・教授 (32627)	
研究分担者	遠藤 純 (Endo Jun) (10416258)	武庫川女子大学・教育学部・准教授 (34517)	
研究分担者	大貫 俊彦 (Onuki Toshihiko) (70738426)	千葉工業大学・工学部・准教授 (32503)	
研究分担者	柿本 真代 (Kakimoto Mayo) (40759081)	京都華頂大学・現代家政学部現代家政学科・准教授 (34325)	
研究分担者	酒井 晶代 (Sakai Msayo) (10279953)	愛知淑徳大学・創造表現学部・教授 (33921)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中川 理恵子 (Nakagawa Rieko) (00286890)	豊岡短期大学・その他部局等・講師 (44505)	
研究分担者	宮川 健郎 (Miyakawa Takeo) (80166123)	一般財団法人大阪国際児童文学振興財団・その他部局等・特別専門員 (84418)	
研究分担者	目黒 強 (Meguro Tsuyoshi) (70346229)	神戸大学・人間発達環境学研究所・准教授 (14501)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	香川 雅信 (Kagawa Masanobu)	兵庫県立歴史博物館・兵庫県立歴史博物館学芸課・学芸課長	
研究協力者	松本 育子 (Matsumoto Ikuko)	刈谷市美術館・学芸員・館長代理	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------